

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成27年6月18日(2015.6.18)

【公表番号】特表2015-501344(P2015-501344A)

【公表日】平成27年1月15日(2015.1.15)

【年通号数】公開・登録公報2015-003

【出願番号】特願2014-535914(P2014-535914)

【国際特許分類】

C 08 J	7/04	(2006.01)
B 32 B	27/36	(2006.01)
B 32 B	7/12	(2006.01)
C 09 J	7/02	(2006.01)
C 09 J	123/02	(2006.01)
C 09 J	171/12	(2006.01)
C 09 J	11/06	(2006.01)
H 01 L	31/049	(2014.01)
C 09 J	133/04	(2006.01)

【F I】

C 08 J	7/04	C F D E
B 32 B	27/36	
B 32 B	7/12	
C 09 J	7/02	Z
C 09 J	123/02	
C 09 J	171/12	
C 09 J	11/06	
H 01 L	31/04	5 6 2
C 09 J	133/04	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年4月14日(2015.4.14)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0077

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0077】

実施例1：

硫酸バリウムが18%添加されたP E Tペレットを一軸押出機に供給し、加熱、加圧により溶融した。この溶融体をスロットダイを介し、温度約20℃に保たれた製膜ロール上に押し出し、固化して非晶フィルムを得た。得られた非晶フィルムを、95℃、延伸比3.6:1で長手方向に延伸した。この一軸延伸フィルムを、コロナ処理装置(Engel on Industries社製)に通過させて、1.5W/フィート<sup>2</sup>・分の出力でコロナ処理を行った。引き続き、長手方向に延伸したフィルムに対し、リヴァースグラヴィアコーティングロールを用いて、固形分20重量%の水分散液の塗布を行った。水分散液の固形分は、乾燥塗布層重量を基準として、50重量%のMichelin Prime 4983R(Michelin社製、エチレン-アクリル酸共重合体分散体)および50重量%のEPOCROS WS700(日本触媒社製、日本、オキサゾリン架橋剤)から成っていた。長手方向延伸塗布フィルムは、更に約100%で乾燥させ、次いで、延伸比4.3:1で横方向に延伸し、二軸延伸フィルムを得た。得られた二軸延伸フィルムは23

0 で熱固定を行った。最終的なフィルムの厚みは 250  $\mu\text{m}$  であった。乾燥塗布層の厚さは、塗布組成物の固形含量、塗布厚み（乾燥前）および横方向延伸ファクターから計算し、55 nm であった。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0079

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0079】

実施例 2：

硫酸バリウムが 18 % 添加された PET ベレットを一軸押出機に供給し、加熱、加圧により溶融した。この溶融体をスロットダイを介し、温度約 200 に保たれた製膜ロール上に押し出し、固化して非晶フィルムを得た。得られた非晶フィルムを、95%、延伸比 3.6 : 1 で長手方向に延伸した。この一軸延伸フィルムを、コロナ処理装置（Enercon Industries 社製）に通過させて、1.5 W/フィート<sup>2</sup>・分の出力でコロナ処理を行った。引続き、長手方向に延伸したフィルムに対し、リヴァースグラヴィアコーティングロールを用いて、固形分 20 重量 % の分散液の塗布を行った。分散液の固形分は、乾燥塗布層重量を基準として、50 重量 % の Michem Prime 4983R (Michelman 社製、エチレン-アクリル酸共重合体分散体) および 50 重量 % の EPOCROS WS700 (日本触媒社製、日本、オキサゾリン架橋剤) から成っていた。長手方向延伸塗布フィルムは、更に約 100% で乾燥させ、次いで、延伸比 4.3 : 1 で横方向に延伸し、二軸延伸フィルムを得た。得られた二軸延伸フィルムは 230% で熱固定を行った。最終的なフィルムの厚みは 125  $\mu\text{m}$  であった。乾燥塗布層の厚さは、塗布組成物の固形含量、塗布厚み（乾燥前）および横方向延伸ファクターから計算し、55 nm であった。